『クジラがしんだら』

江口　絵理/文 かわさき　しゅんいち/絵
藤原　義弘/監修 童心社

いつもは静かな深海に、命を全うしたクジラが降りてきました。突然現れたごちそうに、深海の生きものたちは大騒ぎ。クジラを食べようと我先に集まってきます。クジラの命は尽きても、そこにいる生きものたちの糧となり、100年に渡って命を繋いでいくのです。

深海でくり広げられる命の循環について、思いをめぐらせてくれる絵本です。

『やらなくてもいい宿題　謎の転校生　算数バトル編』

結城　真一郎/作 主婦の友社

5年1組の転校生・ナイトウさんは、謎の人。数斗の親友・荒城は、彼女が街を騒がせている怪盗ランマかも？と疑う。秘密を探ろうとする数斗に、ナイトウさんは算数の問題に正解する度、1つ質問に答えると条件を出す。ところがそれは、罠が仕掛けられた難問だった。果たして彼女の正体は？

謎を明かすために繰り広げられる算数問題バトル。

『波あとが白く輝いている』

蒼沼　洋人/著　講談社

幼い頃、東日本大震災で母を亡くした小6の七海。母が小学生の時に書いた交換ノートを読み、母が生まれ育った、震災前の町のことを知りたいと思うようになります。

登場人物たちは、東日本大震災やコロナ禍を背負っており、現実の重さや厳しさが伝わってきます。母の言葉を胸に、未来に進もうとする七海にエールを送りたくなります。

図書館おすすめブックリスト

2025年２月発行
編集・発行　砺波市立図書館

ココロふるえる本との出会いで ハート フル充電!!

No.28 小学4～6年生向け

『オリヒメ　人と人をつなぐ分身ロボット』

吉藤　オリィ/著 加藤　悦子/文
子どもの未来社

東京にある「分身ロボットカフェ」で働く、小さなロボット「オリヒメ」。動かしているのは、難病や障害で身体を動かせない「パイロット」たち。彼らも、ここでは生き生きと働くことができるのです。オリヒメを作った吉藤オリィさんは、人の孤独を癒すことは人にしかできないと、AIではなく人間が動かすロボットの開発を続けています。

人と人がつながる未来に希望を感じる一冊です。

『釣って食べて調べる深海魚』

平坂　寛/文　キッチンミノル/写真　長嶋　祐成/絵
福音館書店

　日本の近海には深海がたくさんあり、富山湾もその1つ。そのため、深海魚と簡単に出会うことができます。多くの深海魚のお腹が黒いのはなぜ？おいしい魚と、“ほおばると体が震え上がるほど”まずい魚の違いは？実際に釣ったり食べたりすることで、深海魚の暮らしぶりやまだ解明されていない謎がみえてきます。味の解説とおいしい調理法も詳しく載っています。

『給食が教えてくれたこと「最高の献立」を作る、ぼくは学校栄養士』

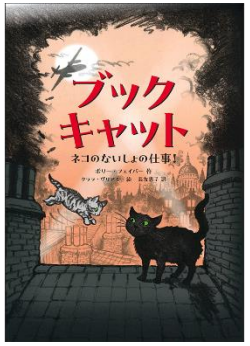
松丸　奨/著　くもん出版

　好き嫌いが多く、給食が大嫌いな小学生だった著者。当時の栄養士さんの言葉から、栄養のある給食が身体や味覚を育てるということに気づきます。そして現在、栄養士となって、最高においしい給食を作るために奮闘しています。
　栄養士という仕事をとおして、給食を作る人々の思いや、世界中で社会問題になっている食品ロス・貧困についても知ることができます。

『動物の義足やさん』

沢田　俊子/文　講談社

　義肢専門学校在学中に、動物の義肢を作る会社がないことに気づいた島田さん。卒業後、獣医師のアドバイスを受けながら装具を作り続け、動物のための装具の製作所を設立し、今では全国の獣医師から信頼を得るまでになりました。
　島田さんのあきらめずにやりとおす熱意や、装具のおかげで生活がしやすくなった動物の幸福な様子に、心が温かくなります。



『ブックキャット　ネコのないしょの仕事！』

ポリー　フェイバー/作　クララ・ヴリアミー/絵
長友　恵子/訳　徳間書店

　第二次世界大戦下のロンドン。空襲でひとりぼっちになった黒ネコのモーガンは、偶然たどり着いた出版社で「ブックキャット」として働くことになります。夜はネズミを捕って紙を守り、昼は編集者や作家のお手伝い。子ネコたちを安全に生活させるため、先生になって仕事を教えたりと大奮闘！
　ミュージカル「キャッツ」のモデルになったという、実在した黒ネコのおはなしです。

『だるまさんがころんで』

林　けんじろう/作　岩崎書店

　「だ～るまさんがこ～ろんだ♪」この遊びが競技になってるって！？　6年生のカン太は、ひょんなことから達磨寺で行われる「全国だるまさんがころんだ選手権大会」（だるころ）を目指すことに…。仲間を募り練習を始めるも、チームワークはバラバラ、トラブル続出。カン太は心が折れそうになります。
　果たしてチームは「だるころ」に出場し、勝つことができるのでしょうか？

『ひと箱本屋とひみつの友だち』

赤羽　じゅんこ/作　さ・え・ら書房

　ひと箱本屋カフェで手づくりの本と出会った朱莉は、その本を作ったのが自分と同じ小学生だと知り、友だちになりたいと思います。初めて会う約束の場所にいたのは、車椅子に乗った女の子・理々亜で、２人は仲良くなりますが…。
　障害者への同情や、気づかいからくる「やさしい仲間はずれ」と向き合いながら、朱莉は理々亜と本当の友達になるためにどうすればいいのか考えます。